

平戸市都市計画マスタープラン

第5回策定委員会 議事要旨

日 時 平成25年5月16日(木)午後14時00分~午後15時00分

場 所 平戸市社会福祉協議会2階会議室

出席者

【委員】鮫島委員長、町田副委員長、木田委員、須藤委員、末永委員、松尾委員、立石委員、松山委員(中川委員代理)、濱村委員、北川委員、松田委員(教育)、濱田委員(綿川委員代理)、鴨川委員、井手口委員、重富委員、池田委員、相知委員、寺田委員、尾上委員、小川委員、松田委員(商工)、荒木委員、横石委員(欠)、岡委員(欠)

【事務局】白鞘建設部長、久保川都市計画課長、三好参事、村山技師

【国際航業】的野、大畠

1. 開会

2. 議題

(1) パブリックコメントの意見とその回答等について

(2) 都市計画マスタープランの最終確認について

委員長：第4回委員会の意見を元に修正を加え、パブリックコメントを実施しているが、
都市計画マスタープラン案について意見をいただきたい。この案でよいか？

(「よい」との意見が多数あり。)

委員長：それではこの案でよいということとする。

委員長：計画案に関係ないが、委員会にご出席いただいた方々に、20年後にどうなっているか、この計画を俯瞰して、ご意見をいただきたい。

副委員長：パブリックコメントについていくつか意見を採用、回答をいただいたが、それについて市民の皆さんを見た時にストレートに夢を描けるような言葉で考えた。都市計画マスタープランはどちらかというとインフラに関わる部分が強いので、夢よりは現実問題がどうなるかが重要である。市民の皆さんができるだけ夢を実現するにふさわしいインフラを作っていくのか、期待している。

鴨川委員：ここ数年の動きが早いので今後どうなるか分からないが、都市マスに挙げたように皆さんに頑張っていただきたいといけない。地域の部分的ではなく、平戸全体を見て頑張っていく。

井手口委員：最初は難しく、言葉や内容も分からぬことばかりだったが、20年後を見据えた都市マスを作るために頑張ってきたので、これからこの計画を目標にまちづくりを行っていきたいと思う。勉強してこれからも頑張りたい。

重富委員：20年後どうなっているか分からないが、計画に沿ってまちづくりが出来れ

ばと思う。

池田委員：20年後を描いたプランだが、私達が考えている以上に色々な変化が5年、10年単位で起きると思う。また、市民の活動も重要になってくると思う。今回議員として参加でき勉強になったが、言葉使いや計画自体に制限があるように感じたので、この計画が全てというよりも参考として捉え、時代に合わせて対応していかないといけない。

相知委員：20年後には団塊世代が高齢化のピークに達する時なので、バリアフリー化を含んだ都市計画にて高齢社会に対応し、ハードを整備した後、ソフトが追いついていく形が出来たと思う。

寺田委員：現状・課題を分析し、今後の方向を良く示せているので、これを実行していくことが大事である。行政、団体も含めて行っていきたい。

尾上委員：P65以降に行政職員としての位置づけが掲載されているが、平戸市の財政状況、行政事業が20年後にどうなっているか不安が残る。毎年都市マスを見直し、出来ることから行ってもらいたい。

小川委員：福祉の立場から意見を述べると、少し切り口が甘かったと感じている。計画を作るのが目的になってしまいがちだが、行政として実現を約束する責任がある。

松田委員（商工）：観光、商工の立場で意見を述べると、平戸市は古くから観光地として栄えてきた。都市マスは観光地づくりとしての仕上げを求められており、ハード整備が全面に出た計画であるが、観光地として見た場合、住んで良しの街でないと観光客も良いと言ってくれない。ハードに重きを置いたところに、ソフト面として人情を加え、賑わいを出していきたいと思う。行政から見たら財源や人は随分縮減しており、市民によるまちづくりが求められているので、これからは市民と協働で作り上げていかないといけない。

荒木委員：ハードばかりでなく、ソフト面も入れた計画が出来たと思う。人、景観、経済を考えると農林水産省のバックアップが必要である。

濱田委員：全体的に良くできているが、田平は20年後には道路も出来ている。沿道の市街化が進むので、区域の拡大も今後必要だと思う。

松田委員（教育）：今後の取り組みについても分かりやすいと思う。今まで都市計画税が地域に活かされているのか？と言われてきた。一定の役割を終えた地域については除外を検討していくべきだと思う。今回は良い時期だった。これからまちづくりを具現化していく、また、他の計画と整合を取りっていく必要がある。

北川委員：計画に沿って実現化することが重要だと思う。

濱村委員：都市計画の羅針盤に沿って、活気あるまちづくりに取り組んでいく。

松山委員：20年後に向けてやっていく。

立石委員：津吉地域は高齢者に優しいまちを目指している。出来れば早い内に高齢化のハード、ソフト対策ができるようお願いしたい。

松尾委員：P71の4項目を検討するということなので、今後も協議してほしい。

末永委員：P48にて『バスの利便性向上を図る』とあるが、平戸は自転車の活用が少ないので今後検討してほしい。

須藤委員：現在農村地域の見直しをしており、また TPP 等の大きな問題がある。西九州自動車道のアクセスにより交通量、人口の変化や、企業が来る可能性もある。今回の見直しは良いタイミングだった。老後住みやすい街を目指すとしても良い計画である。今後の見直しでは官民一体となることが大事だと思う。

木田委員：若者を増やし、人口を減らさないよう工夫しなければ都市マスの活用ができない。若者が都市マスを活かしていくようにしなければならない。今後高速が出来て利便性が高まると思う。計画を作つてよかったですと言えるように行政・民間が活用しなければいけない。

委員長：平戸市の 20 年度について、私の考えを述べたい。この計画は、目標人口を 3 万人から 2.5 万人へ縮小を前提とした計画である。じわじわと人口が減り、高齢者が増えていくという暗いイメージがあったので、こういう計画は今まで日本では経験がなく、どう縮んでいくのか、ひとつのモデルを作らなければならなかった。縮小する際でも、人口構成が適切であり、若者も高齢者も楽しく暮らしているという姿が描ければ怖くない。設定人口は、かつて平戸藩、松浦藩時代の人口とそう変わらないか、少し多いくらいである。20 年後の人口を 2.5 万人にしたのは、縮小するのではなく、その時に適切な人口の分布になるようにしただけである。

若者が住み続けられるように、平戸で同じ学校で過ごしたクラスメイトの 1/3 が戻ってきて、仕事や子育てできるようにしなければならないが、現在は過剰に出て行き戻ってこないので不安になっている。一次産業・二次産業・加工業・流通業・観光業を組み合わせて、子供・若者・中堅・お年寄りがバランスよく住める 21 世紀後半の未来像を描いた平戸ユートピアを作りたい。そういう視点で見た時に、何が足りないのかを考えてほしい。各地域でどんな仕事が考えられ、何をもって食べていくのかも重要なポイントである。本来は総合計画で考えるべきことだが、その下を支えるような都市の骨格、骨組みをどのように定着させていくか、血や神経を通わせるソフトの部分を色々な形で工夫する必要がある。

例えば医療や福祉について、高齢者は在宅ケアを望んでいるが、実現させるにはかなりのサービス量が必要となる。北欧の在宅ケアは、住み慣れた地域の中心部に自立して住める住宅を作り、周囲が見守りながら暮らしており、点在した住宅をケアヘルパー等が訪問すれば移動時間が掛かり多くは回れないのに比べ、半日で 10 件程度回れるので、見る側の効率も良くなる。

津吉で昔から暮らしている高齢者が、津吉で周囲から見守られながら生活し、城下に行く際は公共機関を安い料金で利用できるような仕組みがあれば、地元で生活できないという不安がなくなる。現在、北部、中部地区には病院があるが、南部地域には少なく、もし南部地域の方が病気等にかかり搬送する間に亡くなってしまったら、南部地域に住むより北部、中部となり、南部地区に住む人が少なくなるかもしれない。そういう不安を与えないよう、そこに住み続けられるよう基盤を整えなければならない。

骨組みとなるベースを整え、そこでどう暮らしていくのかというソフトな部分を住民が自分達でイメージを膨らませていってほしい。20 年間の計画を立てても、人は 3

年で成果が見えないと納得しない。3カ年で一步でも前進できるよう、皆様それぞれの立場で頑張っていただきたい。

3. 閉会

以上